

本書の特長

学習効率を上げるため
テーマごとにまとめています。

第1章-1 簿記の学習を始めよう				
番号	レベル	内容	問題頁	解答頁
1	基本	簿記の目的	P.4	P.128
2		損益計算書の作成	P.4	P.128
3		貸借対照表の作成	P.4	P.128
4	応用	損益計算書・貸借対照表の作成	P.4	P.128
第1章-2 仕訳をマスターしよう				
5	基本	仕訳	P.6	P.129
6	応用	仕訳	P.7	P.129

INPUT

[基本知識/解答方法の確認]

基本的な論点を確認した後、
実際に数値を使い解答方法
を確認します。

設例

4月1日に営業を開始した東京株式会社の下記の資料に基づき、各期に答えなさい。

(1) 東京株式会社の営業開始時の資産、負債、資本は下記のとおりであった。これに基づき、開業時の貸借対照表を作成しなさい。
 現金 ¥ 80,000 買掛金 ¥ 20,000 備品 ¥ 70,000
 売上 ¥ 50,000 買入金 ¥ 200,000 資本金 ¥ ?

(2) 当期の収益、費用は下記のとおりであった。これに基づき、損益計算書を作成しなさい。なお、仕入れ商品品は全て販売した。
 売上 ¥ 70,000 受取利息 ¥ 20 仕入 ¥ 40,000
 給料 ¥ 10,000 水道光熱費 ¥ 8,000 支払家賃 ¥ 3,000
 雑費 ¥ 4,000

設例で解答方法をチェック!

OUTPUT

[基本問題/応用問題を解く]

基本問題で知識の確認が
できたら応用問題で本試験レ
ベルの問題にチャレンジ!

問題演習

1 簿記の目的 [基本問題] 解答頁P.2
解答欄P.2

解答欄の文章の()内に入る適当な用語を下記の語群から選び、記号を記入しなさい。

ア収 益 イ費 用 ウ資 本 エ費 用 債 権 計 算 書
カ貸借対照表 ホ損益計算書 ク簿記ク現象の取引
中経営成績 シ事業規模 タ財政状態

2 損益計算書の作成 [基本問題] 解答頁P.128
解答欄P.128

東京株式会社の1会計期間の資料に基づいて、損益計算書を作成しなさい。

給 料 ¥ 60,000 水道光熱費 ¥ 30,000 消耗品費 ¥ 15,000
雑 費 ¥ 9,000 受取手数料 ¥ 15,000 受取利息 ¥ 300

3 貸借対照表の作成 [基本問題] 解答頁P.128
解答欄P.128

東京株式会社の第1期期の資料に基づいて、貸借対照表を作成しなさい。

現金 ¥ 120,000 建 物 ¥ 240,000 備 品 ¥ 100,000
借入金 ¥ 300,000 資本金 ¥ ?

4 損益計算書・貸借対照表の作成 [応用問題] 解答頁P.3
解答欄P.3

横浜株式会社の次の資料に基づいて、期末の損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。

<<××年3月31日の発定定額表>>

現金 ¥ 80,000 売掛金 ¥ 27,000 建 物 ¥ 270,000
備 品 ¥ 90,000 買掛金 ¥ 15,000 借入金 ¥ 152,000
資本金 ¥ 230,000 繰越前期末金 ¥ 100,000 仕 入 ¥ 500,000
給 料 ¥ 20,000 水道光熱費 ¥ 15,000 耗 耗 品 費 ¥ 6,000

基本問題 **応用問題**

それぞれに本試験をイメージした解答時間を明示しています。

学習の状況をチェック!

解答の正誤などを常にチェックすることにより、苦手科目や重点的に復習すべき所を把握できます。

- なかなか復習の時間が取れない方は、過去問を解く前に間違えた箇所を再度チェック!

コンテンツ&チェックシート
CONTENTS & CHECK SHEET

★各チェック欄は解答後に記入し、次に記入することにより苦手科目を把握し、どこを重点的に復習すべきかにご利用ください。

第1章-1 簿記の学習を始めよう						
番号	レベル	内容	問題頁	解答頁	チェック欄	
1	基本	簿記の目的	P.4	P.128	✓	✓
2		損益計算書の作成	P.4	P.128	✓	✓
3		貸借対照表の作成	P.4	P.128	✓	✓
4		応用	損益計算書・貸借対照表の作成	P.4	P.128	✓
第1章-2 仕訳をマスターしよう						
5	基本	仕 訳	P.6	P.129	✓	✓
6	応用	仕 訳	P.7	P.129	✓	✓
第1章-3 勘定記入をマスターしよう						
7	基本	勘定への記入	P.10	P.130	✓	✓
8	応用	仕訳と勘定への記入	P.10	P.130	✓	✓
第1章-4 試算表の作成方法をマスターしよう						
9	基本	会計検高試算表	P.13	P.131	✓	✓
第2章-1 商品の記帳方法をマスターしよう (PART1)						
10	基本	商品売買	P.15	P.131	✓	✓
11	応用	商品売買	P.16	P.132	✓	✓
12		会計検高試算表	P.16	P.133	✓	✓
第2章-2 商品の記帳方法をマスターしよう (PART2)						
13	基本	商品売買	P.20	P.135	✓	✓
14	応用	商品売買	P.20	P.135	✓	✓

解答用紙が!!

抜き取り方式になっており、
学習の際に便利です!

- 解き直しには資格の大原書籍販売サイト大原ブックストア内の「解答用紙 DL サービス」をご利用ください!



★ 関連法規改正にいち早く対応

関連法規改正にいち早く対応しています。近年の日本の会計は、頻繁に改正が行われています。それに伴い、現在の会計に沿う内容に修正しておりますので、現行法令等に沿った内容で解答することができます。

CONTENTS & CHECK SHEET

★チェック欄は解答後に記入しましょう。常に記入することにより苦手科目を把握し、どこを重点的に復習すべきかにご利用ください。

第1章-1 簿記の学習を始めよう

番号	レベル	内容	問題頁	解答頁	チェック欄	
1	基本	簿記の目的	P.4	P.128	/	/
2		損益計算書の作成	P.4	P.128	/	/
3		貸借対照表の作成	P.4	P.128	/	/
4	応用	損益計算書・貸借対照表の作成	P.4	P.128	/	/

第1章-2 仕訳をマスターしよう

5	基本	仕 訳	P.6	P.129	/	/
6	応用	仕 訳	P.7	P.129	/	/

第1章-3 勘定記入をマスターしよう

7	基本	勘定への記入	P.10	P.130	/	/
8	応用	仕訳と勘定への記入	P.10	P.130	/	/

第1章-4 試算表の作成方法をマスターしよう

9	基本	合計残高試算表	P.13	P.131	/	/
---	----	---------	------	-------	---	---

第2章-1 商品の記帳方法をマスターしよう (PART1)

10	基本	商品売買	P.15	P.131	/	/
11	応用	商品売買	P.16	P.132	/	/
12		合計残高試算表	P.16	P.133	/	/

第2章-2 商品の記帳方法をマスターしよう (PART2)

13	基本	商品売買	P.20	P.135	/	/
14	応用	商品売買	P.20	P.135	/	/

第2章-3 現金の記帳方法をマスターしよう

15	基本	現金および現金過不足	P.22	P.136	/	/
16	応用	現金および現金過不足	P.23	P.136	/	/

第2章-4 預金の記帳方法をマスターしよう

17	基本	普通預金	P.26	P.136	/	/
18		当座預金・当座借越	P.26	P.136	/	/
19	応用	当座預金・当座借越	P.26	P.137	/	/
20		合計試算表	P.27	P.138	/	/

第2章-5 手形の記帳方法をマスターしよう

21	基本	約束手形	P.29	P.139	/	/
22	応用	約束手形	P.29	P.139	/	/
23		当座預金・手形を含む合計残高試算表	P.30	P.140	/	/

第2章-6 電子記録債権・電子記録債務の記帳方法をマスターしよう

24	基本	電子記録債権・債務	P.32	P.141	/	/
25		電子記録債権・債務	P.32	P.141	/	/

第2章-7 有形固定資産の記帳方法をマスターしよう

26	基本	有形固定資産	P.34	P.141	/	/
----	----	--------	------	-------	---	---

第2章-8 その他の債権・債務の記帳方法をマスターしよう

27	基本	その他の債権・債務	P.38	P.141	/	/
28	応用	その他の債権・債務	P.38	P.142	/	/

第2章-9 収益勘定・費用勘定の記帳方法をマスターしよう

29	基本	収益勘定・費用勘定	P.40	P.143	/	/
30	応用	収益勘定・費用勘定	P.40	P.143	/	/

第2章-10 株式会社の資本の記帳方法をマスターしよう

31	基本	株式会社の資本	P.43	P.143	/	/
----	----	---------	------	-------	---	---

第2章-11 消費税の記帳方法をマスターしよう

32	基本	消費税	P.45	P.144	/	/
----	----	-----	------	-------	---	---

第2章-12 訂正仕訳をマスターしよう

33	基本	訂正仕訳	P.47	P.144	/	/
34	応用	訂正仕訳	P.48	P.145	/	/
35		総まとめ1	P.48	P.145	/	/
36		総まとめ2	P.49	P.146	/	/
37		総まとめ3	P.49	P.146	/	/
38		合計残高試算表	P.50	P.147	/	/

第3章-1 主要簿・補助簿をマスターしよう

39	基本	補助簿の相関関係	P.52	P.149	/	/
----	----	----------	------	-------	---	---

第3章-2 現金出納帳・当座預金出納帳をマスターしよう

40	基本	当座預金出納帳	P.55	P.150	/	/
----	----	---------	------	-------	---	---

日商簿記3級

過去問への

ステップアップ問題集

問題編



簿記の学習を 始めよう

1 簿記5要素

取引を帳簿に記録する際には、次の5つの要素に分けられる。

収 益……金銭が増加する原因

収益の例：売上、受取手数料、受取利息

費 用……金銭が減少する原因

費用の例：仕入、給料、水道光熱費、消耗品費、雑費、支払手数料、支払利息

資 産……資金の運用形態、直接的には財産、債権のこと

資産の例：現金、当座預金、建物、備品、車両運搬具、土地、売掛金、貸付金

負 債……他人からの資金の調達源泉、直接的には債務のこと

負債の例：買掛金、借入金

資 本……株主からの資金の調達源泉、資産から負債を差し引いた正味の財産額

(純資産) 資本の例：資本金、繰越利益剰余金

2 財務諸表

5つの要素を2つに分けて、企業の一定期間の経営成績を示す損益計算書と一定時点の財政状態を示す貸借対照表を作成する。

1 損益計算書

一会計期間（通常1年）の収益、費用を記載し、その差額として当期純利益を算定表示する報告書。

〇〇株式会社 自×1年4月1日 至×2年3月31日 (単位：円)			
費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	×××	売上高	×××
給 料	×××	受取利息	×××
水道光熱費	×××		
当期純利益	×××		
	×××		×××

(注) 損益計算書上、売上は「売上高」、仕入は「売上原価」と表示する。

2 貸借対照表

一定時点（期末）の資産、負債、資本を記載する報告書。なお、資本は純資産の部に記載する。

〇〇株式会社 ×2年3月31日現在 (単位：円)			
資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現 金	×××	借 入 金	×××
売 掛 金	×××	資 本 金	×××
建 物	×××	繰越利益剰余金	×××
土 地	×××		
	×××		×××

(注) 貸借対照表上、当期純利益は繰越利益剰余金に加算される。

○年4月1日に営業を開始した東京株式会社の下記の資料に基づき、各問に答えなさい。

(1) 東京株式会社の営業開始時の資産、負債、資本は下記のとおりであった。これに基づき、開業時の貸借対照表を作成しなさい。

現金 ¥ 80,000 建物 ¥160,000 備品 ¥ 70,000
 土地 ¥ 50,000 借入金 ¥260,000 資本金 ¥ ?

(2) 当期の収益、費用は下記のとおりであった。これに基づき、損益計算書を作成しなさい。なお、仕入れた商品は全て販売した。

売上 ¥ 70,000 受取利息 ¥ 20 仕入 ¥ 40,000
 給料 ¥ 11,000 水道光熱費 ¥ 8,000 支払家賃 ¥ 3,000
 雑費 ¥ 60

解答

(1) 開業時貸借対照表

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現金	80,000	借入金	260,000
建物	160,000	資本金	100,000
備品	70,000		
土地	50,000		
	360,000		360,000

(2) 損益計算書

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	40,000	売上高	70,000
給料	11,000	受取利息	20
水道光熱費	8,000		
支払家賃	3,000		
雑費	60		
当期純利益	7,960		
	70,020		70,020

解説

(1) 貸借対照表を作成する際には、資産を左側、負債、資本を右側に記載する。最後に左右の合計額の一致を確認して締め切る。

(2) 損益計算書は下記の手順で作成する。

1. 収益を右側に記載する。なお、売上は「売上高」と表示する。
2. 費用を左側に記載する。なお、仕入は「売上原価」と表示する。
3. 収益の合計額と費用の合計額の差額を求める。プラスの金額になれば、当期純利益である。これは左側に記入（当期純利益は朱記）する。
 また、マイナスの金額になれば、当期純損失である。これは右側に記入（当期純損失は朱記）する。
4. 最後に左右の合計額の一致を確認して、締切りを行う。

問題演習

🕒5min 基本問題

① 簿記の目的

解答用紙▶P.2 解答・解説▶P.128

解答欄の文章の（ ）内に入る適当な用語を下記の語群から選び、記号を記入しなさい。

ア. 収 益 イ. 費 用 ウ. 資 本 エ. 資 産 オ. 財 務 諸 表
カ. 貸 借 対 照 表 キ. 損 益 計 算 書 ク. 簿 記 ケ. 現 象 コ. 取 引
サ. 経 営 成 績 シ. 事 業 規 模 ス. 財 政 状 態

🕒5min 基本問題

② 損益計算書の作成

解答用紙▶P.2 解答・解説▶P.128

東京株式会社の一会計期間の資料に基づいて、損益計算書を作成しなさい。

給 料 ￥ 60,000 水道光熱費 ￥ 30,000 消耗品費 ￥ 15,000
雑 費 ￥ 9,000 受取手数料 ￥ 150,000 受取利息 ￥ 300

🕒5min 基本問題

③ 貸借対照表の作成

解答用紙▶P.2 解答・解説▶P.128

東京株式会社の第1期期首の資料に基づいて、貸借対照表を作成しなさい。

現 金 ￥ 120,000 建 物 ￥ 240,000 備 品 ￥ 100,000
借 入 金 ￥ 300,000 資 本 金 ￥ ?

🕒10min 応用問題

④ 損益計算書・貸借対照表の作成

解答用紙▶P.3 解答・解説▶P.128

横浜株式会社の次の資料に基づいて、期末の損益計算書と貸借対照表を作成しなさい。

<××年3月31日の各勘定残高>

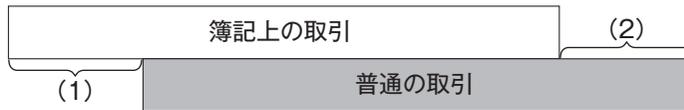
現 金 ￥ 80,000 売 掛 金 ￥ 27,000 建 物 ￥ 270,000
備 品 ￥ 90,000 買 掛 金 ￥ 15,000 借 入 金 ￥ 152,000
資 本 金 ￥ 200,000 繰越利益剰余金 ￥ 50,000 仕 入 ￥ 190,000
給 料 ￥ 50,000 水道光熱費 ￥ 13,000 消 耗 品 費 ￥ 6,000
雑 費 ￥ 2,000 売 上 ￥ 310,000 受 取 利 息 ￥ 1,000

なお、繰越利益剰余金勘定残高の¥50,000は、当期純利益を加算する前の金額である。

仕訳を マスターしよう

1 取引

簿記上の取引は資産、負債、資本、収益、費用の増減変化をもたらすものである。



- (1) 店舗が火災で焼失した。商品が盗難に遭った。
★一般的に取引とはいわないが、資産等の増減を伴う → ∴ 簿記上の取引
- (2) 取引先と契約を交わした。
★一般的には取引というが、単に契約を結んだだけでは、資産等の増減を伴わない → ∴ 簿記上の取引ではない

2 帳簿への記入手順

帳簿への記入手順は次のとおりになる。



3 仕訳

仕訳とは、取引を発生した日付順に帳簿に記入することをいう。その記入方法は次のようになる。

(借方科目)	金額	(貸方科目)	金額
--------	----	--------	----

- ★1 勘定の左側を「借方」、右側を「貸方」という。
★2 借方金額と貸方金額は同額となる。(貸借平均の原則)

〔仕訳の法則〕

仕訳は、次の法則に従って行う。

借方に仕訳されるもの

資産の増加

負債の減少

資本の減少

費用の発生

貸方に仕訳されるもの

資産の減少

負債の増加

資本の増加

収益の発生

設例

次の取引の仕訳を行いなさい。なお、簿記上の取引に該当しない場合は「仕訳不要」と記入すること。

- 2月5日 備品¥50,000を購入し、代金は現金で支払った。
- 12日 現金¥120,000をA銀行から借り入れた。
- 20日 大阪商店と商品の仕入れに関して契約を結んだ。
- 24日 水道光熱費¥4,000を現金で支払った。
- 28日 京都商店より手数料¥30,000を現金で受け取った。

解答

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
2/5	備品	50,000	現金	50,000
12	現金	120,000	借入金	120,000
20	仕訳不要			
24	水道光熱費	4,000	現金	4,000
28	現金	30,000	受取手数料	30,000

解説

仕訳の法則に沿って説明する。なお、仕訳の借方、貸方の金額は必ず一致する。

- 2月5日 借方(備品)は資産の増加、貸方(現金)は資産の減少
- 12日 借方(現金)は資産の増加、貸方(借入金)は負債の増加
- 20日 単に契約を結んだだけでは、資産等の増減が生じないため、簿記上の取引とはならない。よって、仕訳は行わない。
- 24日 借方(水道光熱費)は費用の発生、貸方(現金)は資産の減少
- 28日 借方(現金)は資産の増加、貸方(受取手数料)は収益の発生

問題演習

5 仕 訳

5min 基本問題

解答用紙▶P.3 解答・解説▶P.129

次の取引の仕訳を行いなさい。

- 3月5日 車両運搬具¥300,000を購入し、代金は現金で支払った。
- 12日 現金¥600,000をA銀行より借り入れた。
- 25日 従業員の給料¥160,000を現金で支給した。
- 31日 梅田社より手数料¥45,000を現金で受け取った。

6 仕 訳

次の取引の仕訳を行いなさい。勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	貸付金	備品	借入金
資本金	給料	消耗品費	水道光熱費
支払手数料	支払利息	受取手数料	受取利息

- 4月2日 現金¥100,000を難波商店に貸し付けた。
 5日 備品¥250,000を購入し、代金は現金で支払った。
 12日 A銀行からの借入金¥50,000を返済し、その利息¥200とともに現金で支払った。
 18日 水道代¥5,000を現金で支払った。
 20日 甲文具店より、事務用消耗品¥7,600を購入し、代金は現金で支払った。
 25日 従業員の給料¥171,000を現金で支給した。
 27日 奈良商店より手数料¥53,000を現金で受け取った。
 5月7日 難波商店に対する貸付金¥100,000を回収し、その利息¥250とともに現金で受け取った。

勘定記入を マスターしよう

1 帳簿への記入手順

取引に基づき仕訳を行った後、その仕訳に基づき、各勘定に記入する。これを「転記」という。



2 各勘定へ記入することの意味

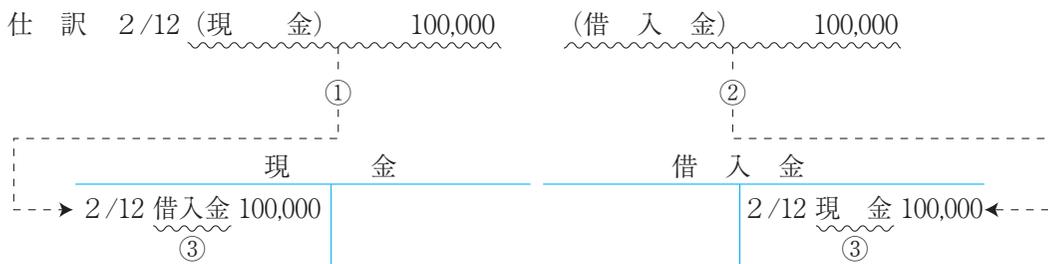
仕訳は日々の取引を日付順に記入するもので、いわば、「日記帳」の役割を果たすものである。しかし、仕訳だけでは、現金の残高がいくらあるのか、売上の総額がいくらかといったことがわからない。

そこで、各勘定ごとの残高等を把握するために各勘定への転記が行われる。

3 勘定への記入方法

各勘定への記入については、下記の例を参照すること。

(例) 2月12日 現金¥100,000をA銀行から借り入れた。



- ★① 仕訳の借方側、現金¥100,000は現金という資産の増加となる。よって、現金勘定の借方に転記する。
- ② 仕訳の貸方側、借入金¥100,000は借入金という負債の増加となる。よって、借入金勘定の貸方に転記する。
- ③ 現金勘定の借入金、借入金勘定の現金は仕訳を行った際の相手勘定科目である。これは勘定をみて、その取引内容の詳細を明らかにするためである。
例えば、現金勘定2月12日の増加は銀行からの借り入れによるものであることが、仕訳の相手勘定科目を記入することによって明確になるのである。

設例

次の仕訳を各勘定に転記しなさい。

2月12日 (現金) 120,000 (借入金) 120,000
 24日 (水道光熱費) 4,000 (現金) 4,000
 28日 (借入金) 50,000 (現金) 50,200
 (支払利息) 200

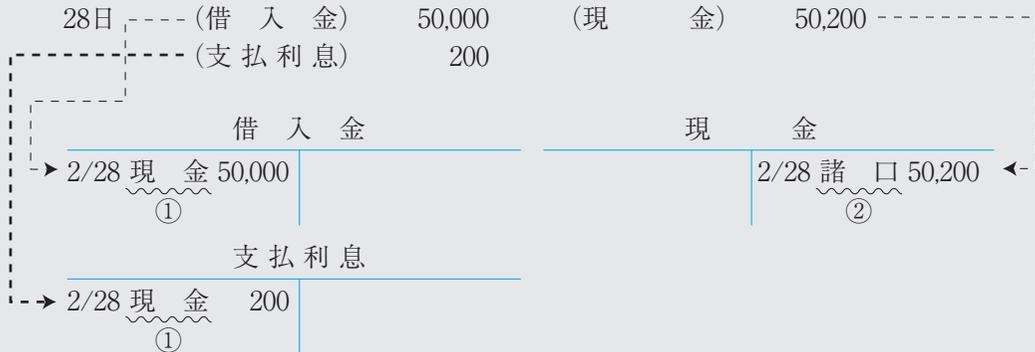
解答

現金		借入金	
2/12 借入金 120,000	2/24 水道光熱費 4,000 28 諸口 50,200	2/28 現金 50,000	2/12 現金 120,000
水道光熱費		支払利息	
2/24 現金 4,000		2/28 現金 200	

解説

2月28日の転記を行う際の相手勘定科目の記入方法について説明する。

まず、仕訳と転記の関係については次のとおりである。



①仕訳の借方側に対する貸方側の相手勘定科目は現金となるため、相手勘定科目は現金と記入する。

②仕訳の貸方側に対する借方側の相手勘定科目は借入金と支払利息の2つの勘定科目である。このため、諸々の勘定口座という意味の「諸口（しょくち）」と記入する。

問題演習

7 勘定への記入

5min 基本問題

解答用紙▶P.4 解答・解説▶P.130

次の仕訳を各勘定に転記しなさい。

3月1日 (現金)	700,000	(借入金)	700,000
25日 (給料)	160,000	(現金)	160,000
31日 (現金)	45,000	(受取手数料)	45,000

8 仕訳と勘定への記入

15min 応用問題

解答用紙▶P.4 解答・解説▶P.130

次の取引の仕訳を行い、各勘定口座に転記しなさい。勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

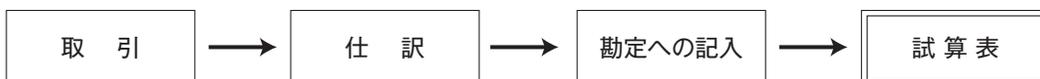
現金	金	車両運搬具	備品	借入金	資本金
給	料	水道光熱費	広告宣伝費	支払利息	受取手数料

- 6月5日 オフィス用の備品¥70,000を購入し、代金は現金で支払った。
12日 A銀行から¥300,000を借り入れ、その利息¥4,000が差し引かれ、¥296,000を現金で受け取った。
18日 電気代¥11,000を現金で支払った。
20日 乙広告社に新聞広告を依頼し、その代金¥30,000を現金で支払った。
25日 従業員の給料¥280,000を現金で支給した。
27日 札幌商店より手数料¥43,000を現金で受け取った。

試算表の作成方法を マスターしよう

1 試算表までの作成手順

仕訳は各勘定に転記されるが、この転記が正しいかどうかを検証するために、各勘定の合計額や残高を1つの表に集計する。これを試算表という。試算表には、合計試算表、残高試算表、合計残高試算表の3つの種類がある。



2 試算表の作成方法

試算表が3種類あることは上で述べた。ここでは、その代表例として、合計残高試算表の作成方法を説明する。合計残高試算表の作成方法をマスターできれば、合計試算表、残高試算表の作成はむずかしくない。

下記の例を確認していただきたい。

(例) 各勘定の内訳

現 金		借 入 金	
300,000	2/ 5 50,000	2/27 10,000	2/12 120,000
2/12 120,000	25 10,000	資 本 金	
28 26,000	27 10,300	300,000	
備 品		受取手数料	
2/ 5 50,000		2/28 26,000	
給 料		支 払 利 息	
2/25 10,000		2/27 300	

借 方		勘 定 科 目	貸 方	
残 高	合 計		合 計	残 高
375,700	446,000	現 金	70,300	
50,000	50,000	備 品		
	10,000	借 入 金	120,000	110,000
		資 本 金	300,000	300,000
		受 取 手 数 料	26,000	26,000
10,000	10,000	給 料		
300	300	支 払 利 息		
436,000	516,300		516,300	436,000

- (注) 1. 矢印は各勘定から合計残高試算表に金額を書き写す手順を示している。
 2. 残高欄の金額は、合計欄の貸借の差引きで求められた差額を記入する。
 3. 合計欄、残高欄の最終合計の貸借は一致する。
 合計欄の最終合計金額は仕訳帳の合計額に一致する。

問題演習



基本問題

9 合計残高試算表

解答用紙▶P.5

解答・解説▶P.131

次の勘定口座に基づき、6月30日の合計残高試算表を作成しなさい。

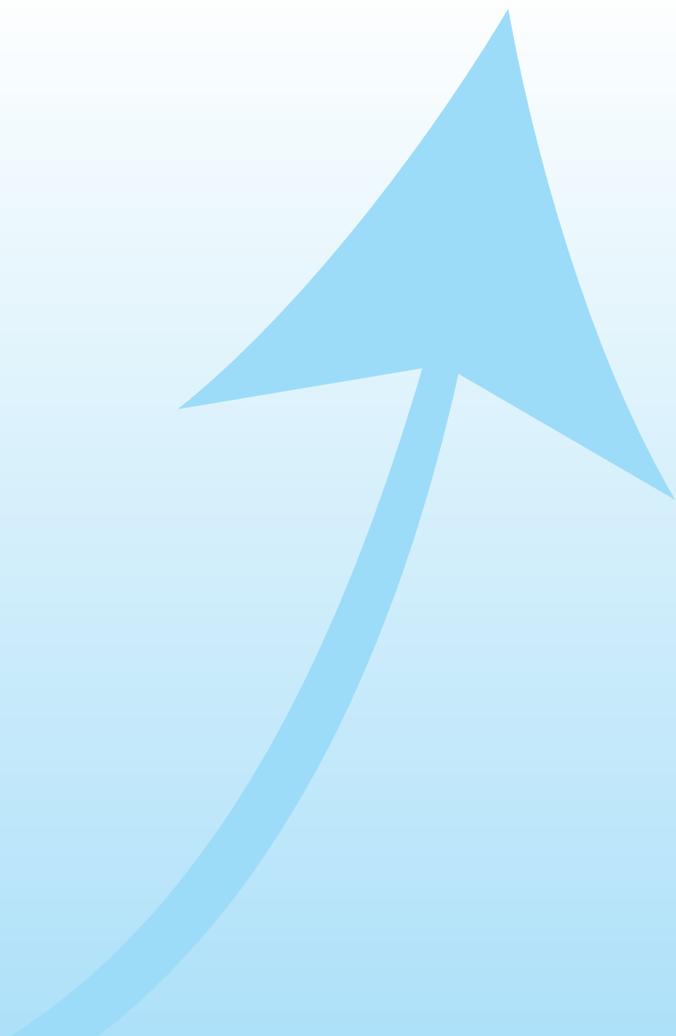
現	金	借	入	金	給	料
500,000	70,000			300,000	60,000	
296,000	80,000					
2,000	3,000			資	本	金
400,000	240,000					水道光熱費
	60,000			480,000	4,100	
	5,200			繰越利益剰余金		消耗品費
	4,100			20,000	5,200	
						広告宣伝費
備	品			売	上	
70,000					400,000	3,000
車両運搬具				受取手数料		支払利息
80,000					2,000	4,000
				仕	入	
				240,000		

日商簿記3級

過去問への

ステップアップ問題集

解答・解説編



1 簿記の目的

テキスト▶P.4

1. (ク：簿記)とは、企業の(コ：取引)を帳簿に記入する技術のことである。企業はこの帳簿に基づき、一定期間の(サ：経営成績)を明らかにする(キ：損益計算書)と一定期日の(ス：財政状態)を明らかにする(力：貸借対照表)を作成する。
2. (キ：損益計算書)は、(ア：収益)と(イ：費用)を対比させ、当期純利益を表示する。
3. (力：貸借対照表)は、(工：資産)と負債および(ウ：資本)を記載する。

2 損益計算書の作成

テキスト▶P.4

損 益 計 算 書

東京株式会社 自××年4月1日 至××年3月31日 (単位:円)

費用の部	金額	収益の部	金額
給料	60,000	受取手数料	150,000
水道光熱費	30,000	受取利息	300
消耗品費	15,000		
雑費	9,000		
当期純利益	36,300		
	150,300		150,300

解説

当期純利益の計算

$$(\underbrace{\yen 150,000 + \yen 300}_{\text{収益の部合計}}) - (\underbrace{\yen 60,000 + \yen 30,000 + \yen 15,000 + \yen 9,000}_{\text{費用の部合計}}) = \yen 36,300$$

3 貸借対照表の作成

テキスト▶P.4

貸 借 対 照 表

東京株式会社 ××年4月1日現在 (単位:円)

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現金	120,000	借入金	300,000
建物	240,000	資本金	160,000
備品	100,000		
	460,000		460,000

解説

$$\text{資本金の計算} \quad (\underbrace{\yen 120,000 + \yen 240,000 + \yen 100,000}_{\text{資産の部合計}}) - \underbrace{\yen 300,000}_{\text{負債の部合計}} = \yen 160,000$$

4 損益計算書・貸借対照表の作成

テキスト▶P.4

損 益 計 算 書

横浜株式会社 自××年4月1日 至××年3月31日 (単位:円)

費用の部	金額	収益の部	金額
売上原価	190,000	売上高	310,000
給料	50,000	受取利息	1,000
水道光熱費	13,000		
消耗品費	6,000		
雑費	2,000		
当期純利益	50,000		
	311,000		311,000

貸借対照表

横浜株式会社

××年3月31日現在

(単位:円)

資産の部	金額	負債・純資産の部	金額
現金	80,000	買掛金	15,000
売掛金	27,000	借入金	152,000
建物	270,000	資本金	200,000
備品	90,000	繰越利益剰余金	100,000
	467,000		467,000

解説

当期純利益の計算

$$\underbrace{(\text{¥}310,000 + \text{¥}1,000)}_{\text{収益の部合計}} - \underbrace{(\text{¥}190,000 + \text{¥}50,000 + \text{¥}13,000 + \text{¥}6,000 + \text{¥}2,000)}_{\text{費用の部合計}}$$

$$= \text{¥}50,000$$

繰越利益剰余金の計算

問題資料に示されている¥50,000に当期純利益の¥50,000を加算して求める。

5 仕 訳

テキスト▶P.6

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
3 / 5	車両運搬具	300,000	現金	300,000
12	現金	600,000	借入金	600,000
25	給料	160,000	現金	160,000
31	現金	45,000	受取手数料	45,000

6 仕 訳

テキスト▶P.7

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
4 / 2	貸付金	100,000	現金	100,000
5	備品	250,000	現金	250,000
12	借入金	50,000	現金	50,200
	支払利息	200		
18	水道光熱費	5,000	現金	5,000
20	消耗品費	7,600	現金	7,600
25	給料	171,000	現金	171,000
27	現金	53,000	受取手数料	53,000
5 / 7	現金	100,250	貸付金	100,000
			受取利息	250

7 勘定への記入

テキスト▶P.10

現 金	
3/1 借入金	700,000
31 受取手数料	45,000

給 料	
3/25 現金	160,000

借 入 金	
3/1 現金	700,000

受 取 手 数 料	
3/31 現金	45,000

8 仕訳と勘定への記入

テキスト▶P.10

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
6/5	備 品	70,000	現 金	70,000
12	現 金	296,000	借 入 金	300,000
	支 払 利 息	4,000		
18	水 道 光 熱 費	11,000	現 金	11,000
20	広 告 宣 伝 費	30,000	現 金	30,000
25	給 料	280,000	現 金	280,000
27	現 金	43,000	受 取 手 数 料	43,000

現 金	
500,000	6/5 備 品 70,000
6/12 借入金 296,000	18 水道光熱費 11,000
27 受取手数料 43,000	20 広告宣伝費 30,000
	25 給 料 280,000

受 取 手 数 料	
	6/27 現 金 43,000

給 料	
6/25 現 金 280,000	

備 品	
6/5 現 金 70,000	

水 道 光 熱 費	
6/18 現 金 11,000	

借 入 金	
	6/12 諸 口 300,000

広 告 宣 伝 費	
6/20 現 金 30,000	

支 払 利 息	
6/12 借入金 4,000	

9 合計残高試算表

テキスト▶P.13

合計残高試算表

×1年6月30日

(単位:円)

借方		勘定科目	貸方	
残高	合計		合計	残高
735,700	1,198,000	現金	462,300	
70,000	70,000	備品		
80,000	80,000	車両運搬具		
		借入金	300,000	300,000
		資本金	480,000	480,000
		繰越利益剰余金	20,000	20,000
		売上	400,000	400,000
		受取手数料	2,000	2,000
240,000	240,000	仕入		
60,000	60,000	給料		
4,100	4,100	水道光熱費		
5,200	5,200	消耗品費		
3,000	3,000	広告宣伝費		
4,000	4,000	支払利息		
1,202,000	1,664,300		1,664,300	1,202,000

10 商品売買

テキスト▶P.15

日付	借方科目	金額	貸方科目	金額
1 / 5	仕入	120,000	買掛金	116,000
			現金	4,000
14	売掛金	197,000	売上	197,000
29	売上	2,000	売掛金	2,000

仕入		売上	
1 / 5 諸口	120,000	1 / 29 売掛金	2,000
		1 / 14 売掛金	197,000

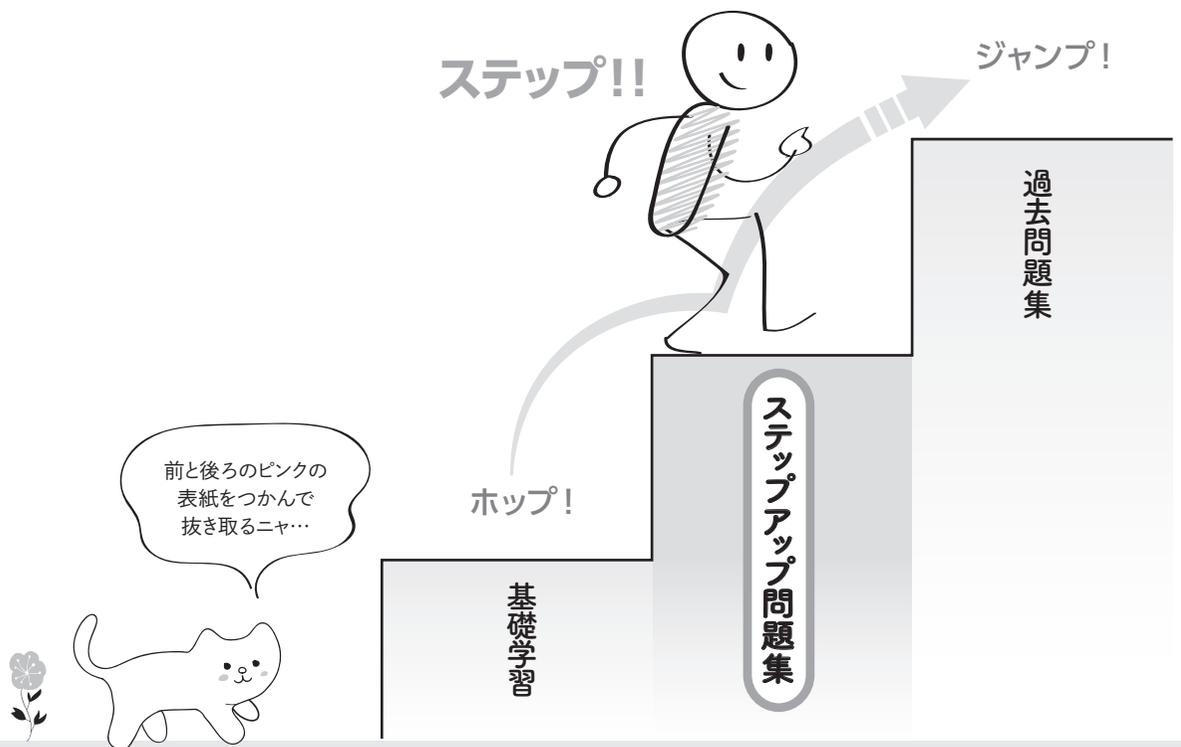
当月総売上高 ￥ 197,000 当月返品高 ￥ 2,000 当月純売上高 ￥ 195,000

解説

当月純売上高は、当月総売上高から売上返品を差し引いて計算される。
 当月純売上高の計算 ￥197,000 - ￥2,000 = ￥195,000

日商簿記3級

過去問への ステップアップ問題集



解答用紙

本気になったら
大原

大原出版

○ 解答用紙のご利用にあたって ○

本書の解答用紙は抜き取り方式となっております。
抜き取り方法は裏面を参照して下さい。

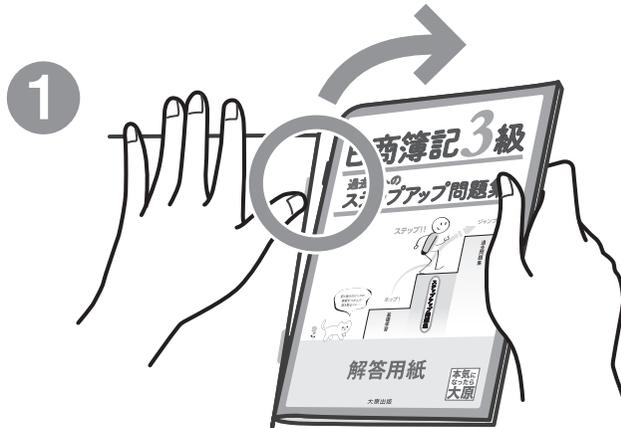
なお、解答用紙だけの販売はしておりません。解き直しを希望される方は、あらかじめコピーをしていただくか、資格の大原書籍販売サイト 大原ブックストア内の「解答用紙DLサービス」よりダウンロードし、印刷してご利用ください。

<https://www.o-harabook.jp/>

資格の大原書籍販売サイト 大原ブックストア

解答用紙の抜き取り方法について

本書の解答用紙は、抜き取り方式の小冊子となっております。
解答用紙の小冊子は、この白紙に軽くのりづけされていますので、
下記の要領に従い、本書から引き抜いて下さい。



解答用紙の束をしっかりとつかむ



静かに引き抜く

解答用紙の抜き取り時の損傷等につきましては、お取替えはご容赦願います。

CONTENTS

1	簿記の目的	P.2	51	仕入帳	P.25
2	損益計算書の作成	P.2	52	商品有高帳	P.25
3	貸借対照表の作成	P.2	53	商品有高帳	P.26
4	損益計算書・貸借対照表の作成	P.3	54	商品有高帳	P.27
5	仕 訳	P.3	55	商品有高帳	P.28
6	仕 訳	P.4	56	固定資産台帳	P.28
7	勘定への記入	P.4	57	主要簿および補助簿	P.29
8	仕訳と勘定への記入	P.4	58	合計残高試算表	P.30
9	合計残高試算表	P.5	59	伝票(3伝票制)	P.31
10	商品売買	P.6	60	伝票(3伝票制)	P.31
11	商品売買	P.6	61	伝票(3伝票制)	P.31
12	合計残高試算表	P.7	62	伝票(3伝票制)	P.31
13	商品売買	P.8	63	伝票(3伝票制)	P.32
14	商品売買	P.9	64	伝票(3伝票制)	P.32
15	現金および現金過不足	P.9	65	伝票(3伝票制)	P.32
16	現金および現金過不足	P.9	66	仕訳日計表	P.33
17	普通預金	P.10	67	証ひょう1	P.34
18	当座預金・当座借越	P.10	68	証ひょう2	P.34
19	当座預金・当座借越	P.10	69	売上原価の算定	P.34
20	合計試算表	P.11	70	売上原価の算定	P.34
21	約束手形	P.12	71	売上原価の算定	P.35
22	約束手形	P.12	72	貸倒れ・貸倒引当金	P.35
23	当座預金・手形を含む合計残高試算表	P.12	73	減価償却	P.35
24	電子記録債権・債務	P.13	74	有形固定資産の仕訳	P.36
25	電子記録債権・債務	P.13	75	有形固定資産の訂正仕訳	P.36
26	有形固定資産	P.14	76	費用・収益の決算整理	P.36
27	その他の債権・債務	P.14	77	収益の決算整理(訂正仕訳)	P.37
28	その他の債権・債務	P.15	78	現金・現金過不足の処理	P.37
29	収益勘定・費用勘定	P.15	79	現金の処理	P.37
30	収益勘定・費用勘定	P.16	80	現金過不足の仕訳	P.37
31	株式会社の資本	P.16	81	当座借越の振替え	P.38
32	消費税	P.16	82	貯蔵品の処理	P.38
33	訂正仕訳	P.17	83	消費税の処理	P.38
34	訂正仕訳	P.17	84	法人税等の処理	P.38
35	総まとめ1	P.17	85	決算整理後残高試算表の作成	P.39
36	総まとめ2	P.18	86	精算表1	P.40
37	総まとめ3	P.18	87	精算表2	P.41
38	合計残高試算表	P.19	88	精算表3	P.42
39	補助簿の相関関係	P.20	89	精算表4	P.43
40	当座預金出納帳	P.20	90	精算表5	P.44
41	小口現金	P.20	91	精算表6	P.45
42	小口現金出納帳	P.21	92	帳簿の締切り	P.47
43	小口現金出納帳	P.21	93	決算振替仕訳	P.47
44	受取手形記入帳	P.22	94	商品に関する各勘定の締切り	P.48
45	支払手形記入帳	P.22	95	損益計算書と貸借対照表の作成	P.49
46	受取手形記入帳	P.23	96	損益計算書と貸借対照表の作成	P.50
47	手形記入帳	P.23	97	損益計算書と貸借対照表の作成	P.51
48	買掛金元帳	P.23	98	損益計算書と貸借対照表の作成	P.52
49	売掛金元帳	P.24			
50	仕入帳	P.25			

① 簿記の目的

テキスト▶P.4

解答・解説▶P.128

1. ()とは、企業の()を帳簿に記入する技術のことである。企業はこの帳簿に基づき、一定期間の()を明らかにする()と一定期日の()を明らかにする()を作成する。
2. ()は、()と()を対比させ、当期純利益を表示する。
3. ()は、()と負債および()を記載する。

② 損益計算書の作成

テキスト▶P.4

解答・解説▶P.128

損益計算書			
東京株式会社	自××年4月1日 至××年3月31日		(単位:円)
費用の部	金額	収益の部	金額
給料		受取手数料	

当期純利益			

③ 貸借対照表の作成

テキスト▶P.4

解答・解説▶P.128

貸借対照表			
東京株式会社	××年4月1日現在		(単位:円)
資産の部	金額	負債・純資産の部	金額

6 仕 訳

テキスト▶P.7

解答・解説▶P.129

日 付	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
4 / 2				
5				
12				
18				
20				
25				
27				
5 / 7				

HINT

4月12日 借入金の返済によって、借入金という債務が減少する。
これは負債の減少となる。また、支払った利息は費用になる。

5月7日 貸付金を回収することによって、貸付金という債権が減少する。
これは資産の減少となる。また、受け取った利息は収益となる。

なお、両仕訳とも借方もしくは貸方の勘定科目が複数になるが、仕訳の借方、貸方の合計金額は貸借平均の原則によって同額となるので、チェックをすること。

7 勘定への記入

テキスト▶P.10

解答・解説▶P.130

現 金	
給 料	

借 入 金	
受取手数料	

8 仕訳と勘定への記入

テキスト▶P.10

解答・解説▶P.130

日 付	借 方 科 目	金 額	貸 方 科 目	金 額
6 / 5				
12				
18				
20				
25				
27				

